



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で “手から手へ” という意味です



糖尿病性腎症重症化予防事業(株) マディアとの連携
～食事写真を介しての食事療法支援～

[当法人評議員]
登録管理栄養士

飯塚 理恵

登録管理栄養士紹介事業では2015年からマディアとの連携で調剤薬局薬剤師の食事療法を支援しています。マディアの業務の目的は糖尿病腎症患者への薬局薬剤師の生活指導の支援で、当法人登録管理栄養士は薬局薬剤師が食事指導をする際の資料作成を担当しています。

対象者は長野県松本市の糖尿病腎症2期・3期の患者で、薬局薬剤師は6か月間に3回の支援を行います。支援の方法は、①薬局薬剤師は主治医の治療方針(指示エネルギー、塩分制限、蛋白制限)を確認、生活内容などを聞きとり、改善目標を設定、②患者はデジカメで一日分の食事写真を薬局に持参、食事写真で不鮮明なところは薬剤師が聞き取り、情報を追加、この情報をマディアが収集し、当法人事務局に送付、③事務局は食事写真が添付された患者情報を管理栄養士に送付、管理栄養士はその資料をもとに一日分の食事の栄養価計算をし、栄養評価シートに結果を入力、入力結果と患者情報をもとに食事内容の改善点をシートに記入し事務局に提出、事務局からマディアに送付、④薬局薬剤師が③の栄養計算結果とコメントをもとに指導、という流れです。

2年間の実績は登録管理栄養士10名が2015年度は25件、2016年度は51件の栄養評価を行いました。1年目は患者情報の未記入、食事の画像や食事内容が不明なものなどがありましたが、2年目には患者情報の漏れをなくすように依頼し、食事画像で不明な点の聞き取りをお願いしたところ、滞りなく作業ができるように改善されました。患者様の食事記録を見ると、1回目に改善を指摘した部分が2、3回目には改善、変更した事例が見受けられました。今年度は松本市の継続支援と新たに大阪府茨木市の支援を実施予定です。

また今年度は埼玉県市町村国保共同による糖尿病重症化予防事業の支援も行う予定です。こちらの目的は糖尿病が重症化するリスクの高い方に受診勧奨、保健指導を行い、人工透析への移行を防止することで、対象は初年度保健指導を終了したものに対して、継続的に病状の確認及び自己管理維持のための支援を行います。期間は3か月の間に薬局薬剤師が2回の療養指導を行い、そのうちの1回が食事写真あるいは食事記録を使用した食事支援です。埼玉県の食事支援では栄養価計算は行わず、薬局から送られてくる患者情報と食事情報をもとに、患者に合わせた食事量と減塩の方法を示したシートに食事評価を記入し、このシートを使用し薬局薬剤師が患者に食事指導を行います。今回この事業に関わる薬剤師研修の食事療法支援の講義も当法人登録管理栄養士が講師として登壇します。

この2年間の活動を通じて、登録管理栄養士の活動が調剤薬局薬剤師の食事指導の支援に役立っていると感じています。参加している登録管理栄養士の活躍により、松本市はもとより、新たに加わる茨木市と埼玉の事業でも成果が出ることを期待しています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 次のうち正しいのはどれか、1つ選べ。(答えは3ページにあります。)

1. 糖尿病ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群ともに突然発症はしない
2. 高齢者2型糖尿病では高浸透圧高血糖症候群より糖尿病ケトアシドーシスを生じやすい
3. 糖尿病ケトアシドーシスは腹痛などの消化器症状で発症することがある
4. 糖尿病ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群が合併することはない
5. 高浸透圧高血糖症候群より糖尿病ケトアシドーシスの方が死亡率は高い



報告

第14回西東京インスリン治療研究会

日時:平成29年3月4日(土)

場所:吉祥寺第一ホテル

第14回西東京インスリン治療研究会は、「GLP1製剤～インスリンとの併用を巡って～」をテーマに3月4日(土)吉祥寺第一ホテルにて開催されました。

一般演題では、コメディカル視線から武蔵野赤十字病院・豊島麻美先生に『糖尿病多発合併症を持つ高齢独居者を在宅で支える時に大切なこと～医療・看護・介護の連携が奏功した1症例～』との演題のもと、実際に医療チーム連携が奏功した事例についてご発表頂きました。また、佼成病院・西田進先生には『男性2型糖尿病患者の中手骨の骨量の変化とその成因に関する臨床的検討』についてご講演して頂き、基調演題では杏林大学医学部付属病院の石田均先生から『「腎症」食品交換表第3版への改訂とそのポイントについて』ご講演して頂き、ご参加頂いたコメディカルスタッフの皆様にもお役立て頂ける内容でございました。

特別講演では、愛知医大・神谷英紀先生と獨協医科大学越谷病院・犬飼敏彦先生にご講演を頂き、GLP-1製剤とインスリンの併用療法におけるベネフィットを実臨床の自験例を交えて頂きながらご教授頂きました。また、現場でおきている問題点も含めインスリンと併用薬の有用性とリスクマネジメントについても非常にわかりやすくご講演頂き、質疑応答なども活発な会となりました。



今回は計72名の医師・コメディカルの方々にご出席をいただき無事閉会致しました。次回は2018年2月下旬に吉祥寺にて開催予定です。今回のテーマは節目の15回開催ということもあり、「インスリン療法の総論」となっております。糖尿病治療薬が多様化する現代におけるインスリンをはじめとする薬剤の役割について再度検討をしていきたいと考えております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。

報告

臨床糖尿病支援ネットワーク・糖尿病災害対策委員会

日時:平成29年3月10日(金)

場所:立川市女性総合センターアイム

【当法人会員】 立川相互病院 長谷川 美紀【薬剤師】

糖尿病災害対策委員会は2012年より、「サバイバルマニュアル」の刊行をはじめ、「糖尿病災害時地域ステーション」の設置など様々な活動を行ってきました。私自身はこの委員会の新入りですが、当初から委員会を推進してきた先生方、コメディカルの皆様の熱意、苦労が非常によく伝わってくる内容でした。

初めに大和調剤センターの森先生から「災害対策5年間のあゆみ」について、先生が経験された災害現場では、手書きの処方箋に対し、薬剤師の判断でその場で用意できる薬剤を使用し処方の対応をするとのことでした。次に、「サバイバルマニュアル改定版」の要点について、公立昭和病院の櫻井先生より紹介がありました。地震だけでなく火山などその他の災害にも対応され、また熊本地震で多く報告された「エコノミークラス症候群」の予防策も強化されています。多摩総合医療センターの辻野先生からは「北多摩南部保健医療圏の取り組み」として、医師会、保健所や薬剤師会と協力をし、薬剤備蓄のマップ作成をしていると報告されました。辻野先生の活動は、西東京だけでなく今後全国の災害対策の見本となることが期待されます。



最後のパネルディスカッションでは、これまでの取り組みに加え、今後検討されていることの意見が交わされ、パネラーの先生方の熱意が皆様に伝わった会になったのではないのでしょうか。





第51回糖尿病学の進歩

平成29年2月17日(金)・18日(土)

国立京都国際会館

レポート1

東京都立多摩総合医療センター

天本 美里 [医師]

基礎知識から最新の研究まで幅広いテーマのプログラムがありましたが、その中でも今回は、近年増加している高齢者糖尿病について述べたいと思います。

高齢者には特有の問題点があり心身機能の個人差が激しく、それに加えて高齢者糖尿病では重症低血糖を来しやすいという問題点も存在し、重症低血糖では認知機能障害や心血管イベントのリスク、転倒や骨折、フレイルなどが増加します。これらを背景として、2016年5月に「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(HbA1c値)」が発表されました。これは、患者の年齢、認知機能、ADLなどから3つのカテゴリーに分けてHbA1cの目標値を定め、SU薬やインスリンなど重症低血糖が危惧される薬剤を使用している場合には、目標下限値を設定していることが特徴です。また今回のプログラムでは、この目標を活用するための認知機能評価方法として、MoCAやDASC-21が紹介されていました。当院でも症例に応じてMMSEとMoCAで評価を行い、治療方針決定の際の一助としています。DASC-21は、中等度以上の認知症かどうかを判定するもので、コメディカルにも質問しやすい21の質問からなり、ADL評価も同時にできるといことで紹介されていました。

実際に日々の診療でも高齢者糖尿病に出会う機会は多いです。これらを利用しつつ、合併症、老年症候群の予防、QOLの維持・向上を目指しながら今後の診療に臨んでいきたいと思っています。

レポート2

東京都立多摩総合医療センター

帆足 莉果 [薬剤師]

SGLT-2阻害薬による心血管合併症予防をテーマとしたセミナーでは、75歳以上を含む高齢者での特定使用成績調査(STELLA-ELDER試験)の結果、心血管疾患(不整脈を含む)0.28%、脳血管疾患0.4%と、承認時臨床試験の結果と一貫していたことが示されました。また、EMPA-REG OUTCOME試験におけるアジア人1500人程度を対象としたサブ解析の結果では、3point-MACE 30%程度改善(全体での結果14%改善)、脳卒中はHR 1前後でした。さらに、東アジア人500人程度に限定した解析では、脳卒中リスクも減少しました。これらのことから、Empagliflozin はアジア人において、より生命予後改善や健康寿命の延長に大きく寄与する可能性があり、少なくともアジア人においては脳卒中リスクを増やしていないことがいえるとの話をいただきました。

SGLT-2阻害薬は血糖降下作用のみならず、血圧、体重、脂質、尿酸、腎機能、NASH・NAFLD・脂肪肝の改善など多面的効果が検討されており、強力なLife saving drugになりうると期待されています。SGLT-2阻害薬の糖尿病治療における位置づけがどのように変化していくのかについては、今後数年注目していくトピックだと思います。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 (糖尿病療養指導ガイドブック2016 P154～P159)より下記項目を抜粋

●高浸透圧高血糖症候群について

前駆症状なしに突然発症することも多く、見逃されやすい(1は×)

高齢の2型糖尿病患者に多い(2は×)

予後は糖尿病ケトアシドーシスより不良で、死亡率は30%との報告もある(5は×)

●糖尿病ケトアシドーシスについて

症状は著しい口渇、多尿、体重減少、倦怠感、意識障害のほかに、消化器症状(悪心・嘔吐、腹痛)が特徴的である(3は○)

●症例によっては糖尿病ケトアシドーシスと高浸透圧高血糖症候群を明確に区別できない場合もある(糖尿病専門医研修ガイドブックより)(4は×)

以上より、正解は3となる。



研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第61回例会

申込不要

テーマ：『超高齢時代のインスリン治療』

開催日：平成29年6月3日（土）15:15～18:50

場 所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」下車 徒歩6分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL:042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト第11回研修会

申込必要

演 題：『Libre時代のCSII療法』

開催日：平成29年6月20日（火）19:20～21:00

場 所：立川相互病院横 薬局棟2階 講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：無料

申 込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/13締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

詳細資料の
同封あり

◆ 西東京CDEの会 第16回例会

申込必要

テーマ：『CDEがこれからの介護（在宅医療）を学ぶ』

開催日：平成29年6月24日（土）15:30～19:00

場 所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円

申 込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/17締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

<看護系> 第14回 西東京糖尿病教育看護研修会

<栄養系> 第14回 西東京病態栄養研修会

<薬剤系> 第14回 西東京薬剤研修会

<臨床検査系> 第2回 西東京臨床検査研修会

<運動療法系> 第2回 西東京運動療法研修会

<フリーコース>

開催日：平成29年7月9日（日）9:25～16:55（開場9:10）

場 所：駒沢女子大学

（京王相模原線「稲城駅」下車 小田急バス約7分 または 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車 小田急バス約20分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/9～5/21] 5,000円 / 通常[5/22～6/30] 6,000円

申 込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の「平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちらから」よりお申込みください。（6/30(金)締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第1群＞の単位数は、研修会毎に異なります。また、＜第1群＞と＜第2群＞の単位はどちらか一方のみ認められます。

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



第60回日本糖尿病学会年次学術集会in名古屋に、参加できましたか？注目の話題は何だったでしょうか。2週間のデータがとれるCGM・SAP・高齢者と糖尿病・認知症・フレイル・薬……多くの情報を得たことでしょう。是非、臨床の場で、患者さんが安心して安全に療養できるように役立ててください。

(広報委員 岡崎 扶美恵)